

日中翻訳について

——「天声人語」(2012.6.27)の翻訳例から——

続 三 義

要旨

『朝日新聞』中文網では「天声人語」の中国語訳が読める。本文では2012年6月27日の「天声人語」を例に、その中国語訳の不十分なところについて検討する。第二章では主に語を中心に、中国語の“更应畏惧”“才真正可怕”と日本語の「恐るべき」の異同を分析すると同時に、意味の正確な把握と表現、中国語の韻律の問題及び故事格言の活用問題に言及し、そして中国語の“谋反”“私恨”“频出”“执意”“凑够”“盟友”“已”などと日本語の「謀反」「私的な恨み」「多く～出た」「意を決して」「まとまった」「仲間」「とっくに」などの異同を分析する際、主に意味の正確な理解と把握の問題として論じる。そのうち、「まとまった」を論じる時、日本語の自動詞が持つ「可能的意味」、中国語の“仍”及び“已”を論じる時、出来事の時間的關係に言及する。第三章では、「ともあれ」と“尽管如此”の異同を論じる際、文脈把握の問題について論じ、そして第四章では「反対の青票」「賛成の白」及び「会見した」など文化(政治)に関するキーワードについて、「文化語の翻訳」問題を論じた。

キーワード 日中翻訳 意味 文脈 文化語

一. はじめに

朝日新聞のコラム「天声人語」は美文としてよく知られ、多くの日本語学習者に語学学習の好材料として利用されている。筆者も日本留学時代から「天声人語」のファンである。朝日新

聞のネット中文網ではこれを中国語に訳している。訳者がいかなる人物であるかは分からないが、曲がりなりにも朝日新聞のネットであることから、ある程度信頼できるものと思われる。しかし、たまには元の日本語の語感をよく理解できていないのか、中国語の表現にやや力が足りないところがある。ここで、2012年6月27日の「天声人語」を例に、主に語を中心に、中国語訳として不十分なところについて検討し、そして文脈の把握問題、「文化語の翻訳」などについて論じ、読者のみな様と分かち合いたいと思う。

翻訳にあたって、言葉の意味の理解が前提である。多くの場合、先人の研究成果である辞書を使えば解決できることである。もちろん辞書ばかりに頼ってはいけない。本文では、基本的に中国語の辞書と日本語の辞書そして中日・日中辞書などの説明を利用し、それらの辞書の相互参照という形で言葉の意味を確認・分析し、『天声人語』中国語訳の足りないところを述べる。さらに辞書の説明でカバーできないところを分析し、辞書に拠らないその他の翻訳例を示す。

二. 語義の理解と表現

1. “更应畏惧”

タイトルの「恐るべき民の『造反』」は、中国語訳は“民众造反更应畏惧”となっている。この訳はまず訳者の苦心したものであると言わなければならない。これに関して、ひとことだけ言っておこう。それは、日本語が連体修飾語

と名詞の組み合わせとなっているが、中国語が主語と述語の文となっているということである。これは日中両言語の特徴なので、ここでは問題にしないことにする。この訳に関して、2つの問題点を指摘することにする。1つは“更”という余計な情報を持つ語を使ってはいけないこと。もう1つは孔子の言葉をそのまま利用することが望ましいということである。まず、字面から見れば、日本語の原文は「恐るべき」となっている。それが中国語に訳された場合、この訳を利用すれば、ただの“应畏惧”となるはずだ。しかし、この訳は“更应畏惧”となっていて、日本語にない“更”という言葉が加えられている。“更”は言うまでもなく、「さらに」、「いっそう」の意味であるので、中国語訳には余計な意味が入っているのである。もしそれを日本語に戻したら、「いっそう恐るべき民の造反」になってしまう。そうすれば日本語の元の意味と違って来る。「天声人語」の執筆者は、もともと何か恐るべきものが存在していて、民の造反は一層恐るべき、という考えを持っていないはずである。したがって、そうした意味の中国語訳は間違っているとしか言えない。

上述のように、中国語訳のタイトルは訳者の苦心したものである。それは中国語の場合、「恐るべき」は“应畏惧”と訳しても一応意味が通じる。そして、「恐るべき」は現代中国語に訳せば、普通“应该畏惧”と訳すべきである。しかし、訳者はこの2つの訳を利用しなかった。1つは、“应畏惧”の語構成は文章語的な“应”と現代語的な“畏惧”との組み合わせはあまり好ましくないということ、もう1つは“应该畏惧”の“应该”はあまりにも話し言葉的過ぎたからである。中国語の韻律の要請から、主語の“民众造反”に対して述語もそれ相応の4つの文字が望ましいというので、上記のことも含め、訳者は頑張って4字熟語的に“更应畏惧”と訳したのだろう。ここでは余計な叙述を避け、結論だけ言うが、程度を表す日本語の「誠

に」あるいは「本当に」にあたる中国語の“誠”という言葉を使って、“民众造反诚应畏惧”にすれば、よりよい中国語になる。

しかし、この「恐るべき」という言葉は、もともと孔子の言葉として知られている。つまり“后生可畏”「後生畏るべし」から由来している。「天声人語」の執筆者はこの語をもじって「恐るべき民の『造反』」にしたものと思われる。したがって、孔子の言葉をもじって訳せば、“民众造反可畏”にして、これは一応意味が通じる中国語になる。ネットの訳者はこれを利用しなかったのは、上述の中国語の韻律の問題に絡み、一応中国語になってはいるが、韻律からいえばちょっと落ち着かないところがあるからだ。ここでも結論だけ言うことにする。1つは、上述のように、“誠”という言葉を利用して、“民众造反诚可畏”の6文字にするか、“民众造反可畏”の7文字にすることができる。もう1つは、文章語の語気助詞“也”を用いて、これはまさに孔子的な言葉になろうが、“民众造反可畏也”にするか、“誠”も加えて、“民众造反可畏也”または“民众造反诚可畏也”にすることができる。

コラムの最後の段落は次のようになっている。その中国語訳も同時に挙げておく。

内輪もめの時ではない。社会保障の組み直し、無駄の削減など、与野党で詰めるべき課題は多い。内閣支持率は20%台。過半の有権者がとっくに青票を握りしめている。恐るべきは、民の造反である。

现在不是内江的时候。执政党和在野党仍需在诸多课题上达成共识，如社保改革、削减不必要的开支。目前内阁支持率徘徊在20%左右，已有过半的选民手中紧握反对票。民众的造反才真正可怕。

ここでは、タイトルの「恐るべき民の『造反』」は、「恐るべきは、民の造反である」となっている。言うまでもないが、コラムのタイトルはこの最終段落の1文を取って付けられたものである。ここが元なのである。それはともかく

として、連体修飾語の「恐るべき」は、ここでは普通の文の主語に変わっている。日本語としてはそれほど意味が変わっていない。それに対して、ここでの中国語訳は“民众的造反才真正可怕”となっている。ここでは、「恐るべき」は、“才真正可怕”と訳されている。タイトルと対照して読めば、いくつかの問題に気づくだろう。1つは、“才”と“真正”という語を使っている。もう1つは、“畏惧”が“可怕”となったことである。

“真正”という言葉は、上述の「誠に」「本当に」などと同じ意味なので、ここでは問題にしないことにする。まず、“可怕”について見てみよう。“可怕”は普通、日本語の「恐ろしい」にあたり、「恐るべき」という訳語が与えられている辞書もあるが、これは中国語としては普通、話し言葉として使われるものであって、そして、「恐ろしい」の意味に現れるような、マイナス的なニュアンスが強い。孔子の元の言葉としての「後生畏るべし」の中の用法も、「恐ろしい」というマイナス的なニュアンスよりも、むしろ敬意を表すべきニュアンスがこめられていたと思われる。したがって、「民が恐るべきである」という言葉の訳としては、“可怕”は使いにくい。“才”を見てから、もう一度この訳を検討することにする。

この中国語訳に“才”という言葉が使われているが、結論からいえば、この使い方は正しいだろう。前にも、「天声人語」の執筆者は、何か恐るべきものがまずあって、民の造反は更に恐るべきものであるという想定をしていない、と述べているが、コラム全体を通してみれば、民主党内で、小沢さんが造反を引き起こしているが、その話はただ話のネタであって、それは大したものではない、大して恐るべきものではない。本当に恐るべきものは何かとといえば、それは「民の造反」なのだ。これが「天声人語」の本当に言いたいところであろう。

中国語の“才”はいろいろな意味があるが、他ではない、これだ、という意味としてよく使

われている。上で述べているように、「天声人語」の本音はここにあるので、この“才”を使えば、その意味を表すのに十分である。つまり、この“才”の使い方は正しいわけである。

話を元に戻せば、この最後の段落の最後の文の中国語訳は、“可怕”という使い方を止めて、上述のように、“可畏”という言葉を使って、“民众造反才真正可畏”という訳にすればいいのである。

2. “说到”

最初の段落の2番目のセンテンスに出てくる言葉である。論述をしやすくするため、「天声人語」の最初の段落とその中国語訳を挙げておく。

中国で生まれた造反という言葉には、かすかに正義が匂う。謀反(むほん)といえ、私的な恨みから主(あるじ)に背く語感だが、造反は正々堂々と大義に従う感じか。かの文化大革命を正当化したスローガン「造反有理」の名残だろう。

源自中国的“造反”一词略带一丝正义之感。说到谋反，就有一种因私恨背叛主人的意味，那么，造反就堂堂正正义凛然了吧。这或许是那句赋予了文化大革命正当化含义的“造反有理”所遗留下来的影响。

“说到”は「～といえ」にあたる訳語である。中国語の“说到”は普通これから述べようとする主語や主体を取りたてて言う場合に用いられる。たとえば、もし“说到小张”といえ、これからこの“小张”という人物について詳しく述べることになる。しかし、本文を読んで分かるように、「謀反」と「造反」はこの文中で対照的に述べられているだけである。つまり後ろの「造反は」の「は」も「といえ」に言い換えられるだろう。言い換えれば、この「謀反といえ」もただの「謀反は」にしてもいいだろう。したがって、この中国語訳はただ「謀反」を訳すだけでいいか、「といえ」を訳したい場合、せめて“要说”を使えばいい。

次の分析と合わせて参照されたい。

3. “謀反”

日本語は「謀反」であるが、中国語訳も“謀反”では、ちょっと適切ではないと考えられる。辞書によっては、日本語の「謀反」は中国語でも“謀反”となっている場合がある。しかし、中国語の“謀反”は、“暗中策划反叛(国家或政治集团)”(《现代汉语词典》第5版。商务印书馆。以下《现汉》)という意味で、『中日辞典』(電子辞典。以下『中日』)では、「反乱をたくらむ」というふうにその意味を説明しているが、《现汉》の“暗中”，つまり「こっそり」「裏で」という修飾語が欠けている。それは別として、要するに、日本語の「謀反」は「時の為政者にさからって兵を起こすこと」(ネット辞書『大辞林』。以下『大辞林』)という意味で、中国語の“謀反”とは意味がだいぶ違うことになる。したがって、日本語の「謀反」を中国語に訳す時、他に“反叛”(謀反を起こす。『中日』)か“叛乱”(武装反乱(を起こす)。謀反(する)。『中日』)を使えばよい。下記の4も合わせて参照されたい。

4. “主人”

日本語の「主」に対する訳語である。原文の引用で分かるように、これは「謀反」に関する説明の中で使った言葉である。中国語の“主人”は、「主人」と「下僕」の関係での「主人」の意味として使うことはできる。しかし、上記の「謀反」に関する辞書の説明、「時の為政者にさからって兵を起こすこと」から分かるように、日本語の「主」はここでは「時の為政者」を指すことになる。ただの「主僕」関係での「主人」ではない。つまり、日本語の「主」は政治的な意味合いが含まれるのに対して、中国語の“主人”はそういった意味合いが含まれていない。現代中国語では、このような関係における「主」に関しては、“主子”や“主公”を使う。たとえば、映画、テレビドラマなどでは康熙帝

に対して召使たちはみな“主子”と呼ぶし、歴史的な題材の「赤壁の戦い」などでも、諸葛孔明は劉備に対して“主公”と呼んでいる。次の5も合わせて参照されたい。

5. “私恨”

これは日本語の「私的な恨み」の訳である。しかし、中国語には熟語としての“私恨”はない。中国語としては普通“私仇”，“私怨”という言葉を使う。“私恨”は漢字から中国人に理解できない言葉ではないが、「天声人語」の訳者は日本語の漢字にこだわり過ぎたのだろう。やはり避けたほうが望ましい。次の6も合わせて参照されたい。

6. “那句”

これは「かの文化大革命を正当化したスローガン」の中の「かの」にあたる訳であろう。

日本語の指示詞「かの」は、「かの女」に代表されるごく日常的な使い方がある。しかし、「かの女」はすでに1語化しているので、「かの」の役は本物の指示詞とは違う。「かの」の意味もそれほど難しいものではない。しかし、それが用いられる文化的、心理的背景はいささか難しいだろう。これに関しては、中国語の“那”にも同じようなことが言えるかもしれない。ここでは深く触れないことにして、ただ後述の修飾関係に関連して、簡単に触れることにする。「天声人語」の訳者は、「かの」は「スローガン」までかかると見て、“那句”と訳している。確かに、日本語では、指示詞は結構離れたところの語句にかかることはある。しかし、ここでは、ただ最寄りの言葉を修飾すると考えたい。つまり、「かの～スローガン」ではなくて、「かの文化大革命」と考える。そして、その最寄りの語句を修飾する文化的、心理的背景は、「かの」が指し示す語句が、普通あまり好ましくないニュアンスを含むことである。「かの～スローガン」なら、「スローガン」は特に良い悪い意味がなく、たとえ「かの～スローガン『造反有

理』』としたところで、「造反有理」も特にマイナス的なニュアンスがあるわけではない。しかし、「文化大革命」は違う。詳しい説明はさておいて、「天声人語」の執筆者は特にこの「文化大革命」に「かの」という指示詞をつけて、「その誰でも知っていて、しかも悪名が高い」ニュアンスを持たせている。これがこの「かの」が用いられた狙いである。次の7も合わせて参照されたい。

7. “賦予了文化大革命正当化含义”

これは「文化大革命を正当化した」の中国語訳である。この訳は適切な表現とは言えない。我々は、“賦予～正当含义”とは言えても、“賦予～正当化含义”などとは言わない。日本語の「正当化する」という言葉は、ただの他動詞として理解し、中国語として、ごく簡単に“使文化大革命正当化”“使文化大革命合法化”と表現できる。もし「天声人語」の原訳の“賦予”を借りて強いていえば、我々は“賦予文化大革命正当理由”“賦予文化大革命合法理由”のように、“理由”という語を使うことができるが、“賦予文化大革命正当化含义”のような言い方では意味が分かりにくい。

ここで2～7の分析を含め、筆者の中国語訳案を挙げておく。

(要说) 谋反, 会有一种因私仇(私怨) 背叛(反叛, 叛逆) 主子的意味。而“造反”或许会有堂堂正正顺从大义之感。这也许是使那场文化大革命正当化的那句口号——“造反有理”留下的影响吧。

8. “频出”

これは2段落目に出てくる言葉である。論述をしやすくするため、「天声人語」の2段落目とその中国語訳を挙げておく。

きのうの衆院本会議。消費増税法案の採決で民主党から多くの造反者が出た。党議拘束をかけたのに、処分覚悟の反対が57票。迷った末の棄権や欠席を合わせ、4人に1人が党

の方針に背を向けた。意を決して反対の青票(せいひょう)を投じる議員たちは、「理は我にあり」の顔である。

昨天的众议院全体大会就消费税增税法案进行表决时, 民主党内造反者频出。尽管民主党事先对本党议员的投票进行了约束, 但仍有57人做好受处分的准备投下反对票。加上因犹豫不定最终弃权或缺席的, 每4人中就有1人违背了党的方针。执意投下反对票的议员们表情中洋溢着“我有理”。

“频出”はこの文の中の「多く～出た」に対する訳語であろう。まず、この“频出”という言葉は上述の“私恨”と同じように、中国語の熟語ではない。たとえこれを使えたとしても、字面的な意味は「頻繁・しきりに出る」という意味しかない。日本語の「多く～出た」という数量的に多いという意味が訳出されていない。ここでは、やはり素直に“民主党内出(現)了不少造反者”と訳したほうがよからう。

9. “约束”

これは日本語の「党議拘束をかけたのに、処分覚悟の反対が57票」の中国語訳に出た言葉である。上記のように、「党議拘束をかけたのに、処分覚悟の反対が57票」に対する中国語訳は、“尽管民主党事先对本党议员的投票进行了约束, 但仍有57人做好受处分的准备投下反对票”となっていて、簡単に“约束”は「拘束」の訳であると、短絡できないが、「党議拘束をかけた」という日本語を“民主党事先对本党议员的投票进行了约束”と訳したのには、1つは、「党議」の意味ははっきり訳出されていない、もう1つは、中国語訳は長すぎるような気がする。「党議拘束をかけた」は、簡潔に“以党的决议进行约束”や“通过党的决议进行约束”にすればいい。

10. “或”

これは「迷った末の棄権や欠席を合わせ、4人に1人が党の方針に背を向けた」という文の

中の助詞「や」に対する訳語である。日本語の助詞「や」は「事物をあれこれ並べ挙げるのに用いる」(『大辞林』)という意味なので、要するに「列挙」の意味しかない。それに対して、中国語の“或”は普通「列挙」の意味よりも「選択」の意味として使われる。『中日』では接続詞としての“或”の意味を「あるいは」としか説明されていない。ここの日本語の意味は「や」を使っているが、「と」と同じ意味である。そのどちらかだけという意味ではない。しかし上記の日本語に対する中国語訳“加上因犹豫不定最终弃权或缺席的，每4人中就有1人违背了党的方针”だけ読めば、その“或”の関係で、私たちは「棄権者」と「欠席者」の両方を含むのではなく、そのどちらか一方だけと読んでしまう可能性が十分ある。日本語の並列助詞の「や」は中国語で表現するとき、やはり“和”を使うべきである。

11. “执意”

これは「意を決して反対の青票(せいひょう)を投じる議員たちは」の「意を決して」に対する中国語訳である。中国語の“执意”は“坚持自己的意见，表示坚决”(《现汉》)、『中日』ではこれを「自分の意見に固執する。頑として(意見に固執する)」と釈義している。しかし、日本語原文の「意を決して」つまり「意を決する」は「決心する。覚悟を決める」(『大辞林』)という意味なので、この両者は全然違う意味合いである。日本語の「意を決する」は“决意”(電子辞書『日中辞典』。以下『日中』)で、つまり、漢字の2字そのままの中国語訳になっている。中国語の“决意”も“拿定主张；决议①”(《现汉》)となっていて、そして、“决议①”は、“拿定主意；决定”(《现汉》)という意味で、要するに、日本語と同義語である。「天声人語」の執筆者は議員たちの投票行為を「自分の意見に固執して」の行為だと決めつける述べ方は絶対しないだろう。

ここの日本語には、「反対の青票」という言

葉はあるが、中国語訳はただの“反対票”つまり「反対票」となっていて、「青」という表現が抜けている。これに関しては、後でまとめて述べる(第四章を参照されたい)。

12. “凑够的”

これは「天声人語」3段落目に出てきた言葉である。論述をしやすくするため、3段落目とその中国語訳を挙げておく。

造反劇の座長にあたる小沢元代表は、投票後に笑顔を見せ、議場を出ると何度か「よし」と発したそうだ。数こそ力と信じる人は、まとまった反対票に満足げ。この勢いで仲間と離党する、との見方もある。

据说这场造反活动的领头人，民主党原党首小泽一郎投票后面带笑容，一走出会场即连声叫好。坚信数量即力量的小泽对于凑够的反对票心满意足。一般认为，小泽会趁势与这些盟友一同退党。

“凑够的”は「数こそ力と信じる人は、まとまった反対票に満足げ」の中の「まとまった」という言葉に対する訳語である。中国語の“凑够”は熟語ではなく、「動詞+補語」という構造で、「かき集めてある数を満たす(した)」という意味を表す。日本語の「かき集める」の意味は、「手を尽くして、方々から集める」(電子辞書『デジタル大辞泉』。以下『大辞泉』)となっていて、それほどマイナス的なニュアンスが見えないが、あまりいいニュアンスではないだろう。中国語の“凑够”はあくまでもいいニュアンスの言葉ではない。「天声人語」の執筆者は投票結果の数をそういう目で見てはいないはずであって、当事者の小沢さんはなおさらそれをそう見てはいないはずである。日本語の「まとまった」は自動詞的な使い方、日本語の自動詞の多くは他動詞に対して、可能の意味合いを持っている。ここでは「まとめることができた」という意味合いがある。したがって、それだけの票を集めることができたということで小沢さんも「満足げ」、ということになる。「まとまる」

の語釈に関して、辞書では“湊”という言葉が用いられているが、それは仕方のないことである。文脈を見てちょっとくどいだろうが、他の訳を考えなければならぬだろう。下記の13も合わせて参照されたい。

13. “盟友”

これは「仲間」の中国語訳である。日本語の「仲間」はよく使う言葉で、意味もそれほど難しくない。『日中』では、次のように語釈している（関係の薄い意味項を省き、記号などを変えるところがある。以下同）。

《一緒に何かをする人》[友人・パートナー] 朋友, 伙伴, 同伙, 一伙; [同僚] 同事; [同志] 同志。

少なくとも、ここの訳語の中からは“盟友”という語が見当たらない。中国語の“盟友”はどういう意味なのだろう。《現漢》では次のように語釈をしている。

结成同盟的朋友。

しかし、この説明だけではちょっと分かりにくい。それでは中国語の“盟”や“同盟”の意味も調べないと分からない。ここでは“盟”の意味だけ見ることにする。

旧时指宣誓缔约, 现在指团体和团体、阶级和阶级或国和国的联合。《(現漢)》

要するに、中国語の“盟友”の意味は、現在では、主に団体間の同盟という意味である。これに対して、日本語にも「盟友」という言葉がある。日本語の「盟友」は「かたい約束を結んだ友。同志」(『大辞泉』)。これなら、日本語の「仲間」と同じ意味である。しかし、中国語の“盟友”は違う意味である。ここでは、小沢さんが自分の「仲間」と一緒に行動を共にする、という意味で、同じ団体内のことである。したがって、ここの「仲間」を中国語に訳す時、“盟友”という言葉を使ってはいけぬ。同じ党内の「仲間」だから、ただの“同志”でよかろう。また実際、小沢さんは党内ではリーダー格だし、反対票を投じた多くの彼の「仲間」も、彼

の弟子格の人たちだろう。したがって、絶対中国語の“盟友”ではない。

この段落の関係文、後ろからの2文を、筆者は次のように訳したい。

相信数量即力量的小泽对于能够聚集如此数量的反对票感到十分满意。有舆论认为, 他可能会趁势与他的同志们一同退党。

14. “成为了可能”

これは「天声人語」第5段落の「実現に動き出した」の中国語訳である。言葉の脈絡を把握しやすくするため、第5段落とその中国語訳を挙げておく。

ともあれ、採決では賛成の白が青を押し、増税は実現に動き出した。消費税率は2014年春に8%, 15年秋に10%に上がり、年10兆円を越す大増税となる。負担感の大きい所得層の救済策が欠かせない。

尽管如此, 表决结果还是白胜蓝, 增税成为了可能。这次大増税将在2014年春把消费税提至8%, 翌年秋再上调到10%, 此举每年将增加10万亿日元以上的税收。针对负担沉重的低收入人群的救济政策必不可少。

日本語の「実現に動き出した」は実際に作動開始という意味で、中国語の“成为了可能”はあくまでも、「可能になった」という可能性について述べている。日本語の動的な表現に対して、中国語は状態的な表現だが、ここでは適切ではないように思われる。ここでは、“开始付诸实施”や“开始落实”でよかろう。次の15も合わせて参照されたい。

15. “大増税”

日本語の「大増税」そのままだが、ここの翻訳に関しては、いくつかの問題がある。

まず、日本語は「大増税」だが、中国語もそのままだと、ちょっと意味が取りにくい。簡単にいえば、“大幅度増税”となろう。

それから、表現の問題であるが、日本語は「消費税率は2014年春に8%, 15年秋に10%に

上がり、年10兆円を越す大増税となる」となっていて、2014年の話、15年の話、最終的に「年10兆円を越す」という「大増税となる」という表現で、その増税の段階性、そして最終的には「大増税」というふうになっている。しかし、その中国語訳を見てみると、いきなり“这次大増税”を決めつけ、そしてその段階的過程を述べる。結論からいえば、こうした翻訳の仕方も許されるだろう。しかし、筆者としては、「最終的には」という意味合いを重要視し、日本語の語順で訳してみたい。

[増税开始付诸实施:] 2014年春消費税率将提至8%, 2015年秋达到10%, 年度税收将增加10万亿日元以上, 增幅巨大。

この段落では、「ともあれ」や「賛成の白」といった表現もあるが、後述を参照されたい(それぞれ、第三章、第四章)。

16. “仍”

これは6段落目に出てきた言葉である。6段落目の原文と訳文は1節で挙げておいたが、この語を含めた文だけ、ここにもう一度挙げることにする。

社会保障の組み直し、無駄の削減など、与野党で詰めるべき課題は多い。

執政党和在野党仍需在诸多课题上达成共识, 如社保改革、削減不必要的开支。

しかし、原文の「社会保障の組み直し、無駄の削減など、与野党で詰めるべき課題は多い」の中から、「課題は多い」という意味が読み取れるが、“仍”の意味が読み取れない。

“仍”に関しては、『中日』は次のように釈義している。

[副詞] 依然として。いまなお。やはり。相変わらず。

これらの訳語はどれを見ても、日本語の原文の意味にはマッチしない。それは、“仍”が主に状態の持続に意味の重点を置いていることからきている。原文の述べ方では、昨日の消費増税法案の採決で一件落着という意味である。し

たがって、一応ではあるが、新たな局面が開かれている。だから、この「依然として」などの意味とは合致しない。「課題は多い」はそのまま“有许多课题”と訳せばいい。もし何か言葉を付け加えるなら、“尚”や“还”など、「さらに」という意の語は使えるかもしれない。

17. “达成共识”

これは「詰める」の訳だろう。しかし、結論から言えば、日本語の「詰める」は中国語の“达成共识”との間には大きな隔りがある。日本語の「詰める」はたくさんの意味項があるが、『日中』では、この意味項を扱っていない。『大辞泉』では、意味項6で次のように説明している。

十分に検討し尽くして物事の決着がつくようにする。煮つめる。

それに対して、中国語の“共识”は「共同の認識。コンセンサス。」(『中日』)“达成共识”は「意見の統一を見た」(『中日』では、“达成了共识”)。つまり、中国語の“达成共识”にしても、“达成了共识”にしても、いずれも事柄の進行状態はある限界に達していることを意味している。しかし、日本語の「詰める」はあくまでもその進行段階にある、という意味である。現に、日本の与野党は多くの問題で競り合ったり、譲歩しあったりしても、「共同の認識」「意見の統一」を得ることはほとんどないようである。「天声人語」の執筆者は、日本の与野党に共同の認識などを毛頭期待していないはずである。結論からいえば、日本語の「詰める」の中国語訳は、「検討」「協議」の意味にあたる中国語訳の“协商”“磋商”などを使えばよからう。

18. “已”

これも6段落目に出てきた言葉である。ここでも、この語を含めた文だけもう一度挙げることにする。

内閣支持率は20%台。過半の有権者がとっ

くに青票を握りしめている。

目前内閣支持率徘徊在20%左右，已有过半的选民手中紧握反对票。

“已”は恐らく日本語の「とくに」の訳だろう。中国語の“已”はそれほど難しい言葉ではない。“已经”の文章語的な言い方として理解できよう。事柄の時間的経過を意味している。もしこの中国語訳をそのまま日本語に戻すなら、「すでに半数の有権者が反対票をしっかりと握っている」となる。意味的には間違っていないかもしれないが、「とくに」の意味が出ていない。中国語の“已”と日本語の「すでに」は、話の手の時点、つまり、現在の時点からして、ある事柄がある設定した時点・限界を経過していることを表している。ここでは、もしこの2語を使うなら、有権者は「半数」に達していない時点から、「半数」を超える時点まで達していることを表している。しかし、「とくに」はそういう意味合いではない。「すでに」という意味合いも含めているが、しかし、ある設定した時点よりも、だいぶ前に、ある事柄がすでに進行していることを表している。この意味からいえば、半数に達しているかどうかは問題ではなく、その過半数の有権者はずっと前から、反対票を握っているという意味を表している。中国語でいえば、“已”ではなく、“早就”または“早已”である。

16～18の議論のもとに、筆者の中国語訳案を示しておく。

社保改革、削減不必要的开支，很多课题都需要执政党和在野党加紧磋商。内閣支持率仅有两成多。有过半的选民早已握着反对票。

三. 文脈の把握と翻訳

文脈の把握は大きな問題である。多くの語の翻訳も文脈の把握にかかわっている。たとえば、16節の“仍”は実は文脈の把握にかかわっている。上述のように、増税法案の採決を1つの区切りと見れば、もはや、次の段階に移らなければならぬので、“仍”の出番ではないだ

ろう。この節では、ただ日本語の「ともあれ」の中国語訳を分析し、文脈の把握の大切さを述べる。

19. “尽管如此”

「天声人語」の第4と第5段落を繋いでいる言葉で、日本語は「ともあれ」である。論述をしやすくするため、第5段までの文章の流れを振り返ってみよう。

第1段は「起」で、「造反」という言葉で話題を提起する。2段落目と3段落目は「承」で、議員の造反とそれを醸し出した小沢さんのパフォーマンスを述べ、事柄のよりどころを示す。それを受けて、第4段落では、まず野田首相の対応を述べるが、衆院本会議の法案採決とそれがもたらすだろう問題点を示し、話を一応締めくくる。そして、話題を次に展開させようとしている。「本望だろうが、増税が政権の息の根を止めかねない」。こういったことを受けて、第5段落では話題を「転」じて、まず衆院本会議の法案採決を振り返り、そして増税が実現に動き出したと、具体的な問題を出していく。そういう文脈の中で、「ともあれ」という言葉が話題の転換の印として出てきた。

「天声人語」の訳者は「尽管如此」という言葉を使って、この話題の転換を表そうとしている。“尽管如此”は1つの連語と考えられよう。これは“尽管”(にもかかわらず)と“如此”(このように、そのように)が一緒になってできた言葉である。辞書では1語として扱われないが、接続詞としてよく使われる言葉である。接続詞としては、「にもかかわらず」、「それにもかかわらず」という意味である。

上述したように、文の流れとしては、第5段落は上の話の流れを受けて展開するという形になっている。したがって、この逆説的な意味の“尽管如此”は適切な表現ではない。それでは、日本語の「ともあれ」はどのような意味だろうか。『日中』では次のように釈義して中国語の訳語をつけている。

《いずれにしても》无论如何，不拘怎样，不管怎么说。

この釈義と中国語訳は正しい。「天声人語」の文の流れからでも、衆院本会議の造反劇があったにしても、小沢さんのパフォーマンスでも、野田さんのパフォーマンスでも、いずれにしても、それらのことはどうでもいい、実際は次のようなことになる、というような文章の展開のことが分かる。

この文章の流れをうまく把握できなかった「天声人語」の訳者は“尽管如此”という言葉を使うことによって、話を元に戻してしまったような感じである。つまり、衆院本会議の造反劇と小沢さんのパフォーマンスの方に逆戻りして、それを受けて、「それにもかかわらず」、衆院本会議の法案採決で、実際こういう結果が出た、というふうに文章の流れを変えてしまう。

翻訳に際し、文脈の把握はとても重要だが、時には単語一つでその流れを決めてしまう。したがって、あくまでも1つ1つの単語を念入りにその意味を調べ、正しい意味で表現できるように工夫することが大切である。

四. 文化語の翻訳

この章で「文化語の翻訳」について述べたい。しかし、「文化語」の定義は難しい。ここではただその国の政治、文化などに関して重要な意味を持つ言葉として理解したい。文化語はある場合、はっきりと文化的要素を示している。たとえば、次の20節の問題である。そしてまた時にははっきり示されておらず、その言葉の背景に潜んでいる。たとえば、ここの21節で示した例である。しかし、その背景が分からないと、時として間違った情報伝達になる。

20. “白胜蓝”

これは日本語の「白が青を押し」の中国語訳である。

ここで挙げた2012年6月27日の「天声人語」は衆院本会議の法案採決に関連して話を展開さ

せている。中でも、投票に関していくつか重要な言葉を使っている。たとえば、「反対の青票(せいひょう)」、「賛成の白」、「青」など。「天声人語」は言葉の定義をきちんとさせるために、わざわざ「反対の青票」、「賛成の白」というふうに修飾語をつけて示している。衆議院での投票は、賛成票は白で、白票(はくひょう)とも言い、反対票は青票(せいひょう)と言って、「青」で表現してもいい。白票(はくひょう)という言葉こそこの1編の「天声人語」ですべて網羅することができないが、少なくとも、この1編だけでも、上述のように、「反対の青票(せいひょう)」、「賛成の白」、「青」と3つの言い方を学ぶことができる。しかし、その中国語訳を見れば、突如に“白胜蓝”⁽¹⁾という表現が出てきただけで、なぜ“白胜蓝”なのか、読者のみなさんにはたぶん頭が真っ白だろう。こういう場合、字数の制限は「天声人語」の原文自身で非常に厳しいようだが、中国語訳はそれほど厳しいとは思われない。したがって、この2、3の文字を惜しまずに、しかも、とても大事な情報だから、きちんと訳出しなければならぬ。関係語句の翻訳案を下に示す。

反対の青票(せいひょう)を投じる / 投
下表示反对的蓝票

賛成の白が青を押し / 表示赞成的白票压
倒蓝票

21. “召开记者会的野田首相”

これは「会見した野田首相」の訳である。これは一見それほど問題ではないかもしれない。中国の実情からいえば、何かあった時、関係者がわざわざ記者会見を催す。たとえば“习近平召开记者会”なら問題ないだろう。しかし、日本の慣習では、記者会見は「記者クラブ」が主催するもので、衆院本会議で法案採決が行われたことで、野田首相がわざわざ記者会見を主催するわけではない。したがって、“召开记者会的野田首相”という言い方は、意味が分かるといっても、実情にはふさわしくない。こういう

ときは、翻訳に工夫をして、他の言い方にしたい。たとえば、次のような訳仕方でもかろう。

会見記者時、野田首相
 在記者会上、野田首相

五. 結び

翻訳は難しい。読者によりよい訳文を提供するために、翻訳者はいろいろ工夫をしていかなければならない。皆様のご教示を乞いたいものである。

〈注〉

- (1) ネット上では、訳文の最後に“生词学习”という欄を設けて関係語句の説明をしているが、ここで論じている「翻訳」の問題と関係がない。

〈参考文献 辞書類 (略)〉

『朝日新聞』「天声人語」中文網 URL
<http://asahichinese.com/article/series/populi/populi081>

附1 「天声人語」(2012年6月27日)とその中国語訳

恐るべき民の「造反」	民众造反更应畏惧
<p>中国で生まれた造反という言葉には、かすかに正義が匂う。謀反(むほん)といえ、私的な恨みから主(あるじ)に背く語感だが、造反は正々堂々と大義に従う感じか。かの文化大革命を正当化したスローガン「造反有理」の名残だろう。</p> <p>きのうの衆院本会議。消費増税法案の採決で民主党から多くの造反者が出た。党議拘束をかけたのに、処分覚悟の反対が57票。迷った</p>	<p>源自中国的“造反”一词略带一丝正义之感。说到谋反，就有一种因私恨背叛主人的意味，那么，造反就堂堂正正大义凛然了吧。这或许是那句赋予了文化大革命正当化含义的“造反有理”所遗留下来的影响。</p> <p>昨天的众议院全体大会就消费税增税法案进行表决时，民主党内造反者频出。尽管民主党事先对本党议员的投票进行了约束，但仍有</p>

末の棄権や欠席を合わせ、4人に1人が党の方針に背を向けた。意を決して反対の青票(せいひょう)を投じる議員たちは、「理は我にあり」の顔である。

造反劇の座長にあたる小沢元代表は、投票後に笑顔を見せ、議場を出ると何度か「よし」と発したそう。数こそ力と信じる人は、まとまった反対票に満足。この勢いで仲間と離党する、との見方もある。

会見した野田首相は「造反者には厳正に対応する」と、不自然に語気を強めた。とはいえ、強い処分で「小沢新党」が思わぬ数に膨らめば、与党は衆院でも過半数を割ってしまう。本望だろうが、増税が政権の息の根を止めかねない。

ともあれ、採決では賛成の白が青を押し、増税は実現に動き出した。消費税率は2014年春に8%、15年秋に10%に上がり、年10兆円を越す大増税となる。負担感の大きい所得層の救済策が欠かせない。

内輪もめの時ではない。社会保障の組み直し、無駄の削減など、無駄の削減など、課題は多い。内閣支持率は20%台。過半の有権者がとっくに青票を握

57人做好受处分的准备投下反对票。加上因犹豫不定最终弃权或缺席的，每4人中就有1人违背了党的方针。执意投下反对票的议员们表情中洋溢着“我有理”。

据说这场造反活动的领头人，民主党原党首小泽一郎投票后面带笑容，一走出会场即连声叫好。坚信数量即力量的小泽对于凑够的反对票心满意足。一般认为，小泽会趁势与这些盟友一同退党。

召开记者会的野田首相稍显不自然地加强语气道：“要严肃处理造反者。”然而，若因处分过重而使“小泽新党”成员激增，执政党在众议院的席位就会跌破半数。虽说是野田首相的夙愿，但增税有可能会结束政权的生命。

尽管如此，表决结果还是白胜蓝，增税成为了可能。这次大增税将在2014年春把消费税提至8%，翌年秋再上调到10%，此举每年将增加10万亿日元以上的税收。针对负担沉重的低收入人群的救济政策必不可少。

现在不是内讷的时候。执政党和在野党仍需在诸多课题上达成共识，如社保改革、削减不必要的开支。目前内閣支持率徘徊在20%左右，已有过半的选民手

りしめている。恐るべきは、民の造反である。	中紧握反对票。民众的造反才真正可怕。
-----------------------	--------------------

附2 筆者の参考訳文

民众造反诚可畏也
<p>源自中国的“造反”一词略带正义之感。日语的“谋反”(叛乱),有一种因私怨背叛主公的意味,那么“造反”是否就有堂而皇之以就大义之感?这或许是赋予那场文化大革命正当理由的口号“造反有理”所遗留的影响。</p> <p>昨天的众议院全体大会就消费税增税法案进行表决,民主党内出现不少造反者。尽管民主党事先通过党的决议对本党议员进行约束,但仍有57人甘受处分而投下反对票。加上因犹豫不定而最终弃权和缺席者,每4人中就有1人违背了党的方针。决意投下表示反对的蓝票的议员们满脸“我有理”的表情。</p> <p>据说这场造反活动的领头人,民主党原党首小泽一郎投票后面带笑容,一走出会场即连声叫好。坚信数量即力量的小泽对于能聚集如此多的反对票心满意足。有人认为,小泽会趁势与这些同志一同退党。</p> <p>会见记者时,野田首相稍显不自然地加强语气道:“要严肃处理造反者。”然而,若处分过重使“小泽新党”成员激增至想象不到的数量,执政党在众议院的席位则将跌破半数。增税也许是野田首相的夙愿,但它有可能结束政权的生命。</p> <p>无论如何,表决结果赞成的白票压倒蓝票,增税向实施启动。消费税将在2014年春提至8%,翌年秋再上调到10%,这将是每年超过10万亿日元的大幅增税。针对感觉负担沉重的低收入人群的救济政策必不可少。</p> <p>现在不是内讧的时候。诸如社保改革、削减不必要的开支等,需要朝野共同磋商的课题很多。目前内阁支持率仅20%多,早有过半的选民手中握着蓝票。真正可畏的,是民众的造反。</p>

活用问题;在分析汉语“谋反”“私恨”“频出”“执意”“凑够”“盟友”“已”等和日文「謀反」「私的な恨み」「多く～出た」「意を決して」「まとまった」「仲間」「とくに」等的异同时,主要涉及对词语语义的正确理解和把握的问题;其中,在论及「まとまった」时,涉及日语自动词语义上含有“可能义”;在论及“仍”以及“已”时,涉及事件的时间关系。第三章通过讨论「ともあれ」与“尽管如此”的异同,探讨如何把握文脉的问题。第四章通过对「反对の青票」「賛成の白」以及「会見した」这些涉及文化(政治)的关键词的分析,论述了“文化词的翻译”问题。

关键词 日中翻译 语义 上下文 文化词

论文摘要

《朝日新闻》的中文网络上可以看到《天声人语》专栏的中文译文。本文主要对2012年6月27日专栏中译文的问题点进行分析。第二章主要分析词语。在分析汉语“更应畏惧”“才真正可怕”和「恐るべき」的异同时,涉及语义的正确理解与表达,汉语的韵律以及典故、经典词语的